

未来の笑顔につながる『笑顔の“もと”』

可児市教育委員会 教育委員 小栗照代

わが子が成人になり子育てがひと段落した今、残りの人生で何ができるのかと、ふと考える。このままの生活を送ったとしたら、死ぬ時に何を後悔するのか。これから何をしたら、いい人生だったと思えるのか。

先日、食事中に息子たちに言った。「今の若いうちに海外旅行に行って来たら。行けるうちに行かないとなかなか行けなくなるよ。」と。すると、「そうだね。行ってこようかな。でもお母さんこそ、今しか行けないよ。」鋭い指摘（笑）に、たった今、自分が息子たちに言ったことを省みた。

国内旅行も行きたい、海外旅行も行きたい、子どもたちに迷惑を掛けないように片付けもしたい。「～したい！」と思うことはその時々にあるが、もっとやりたいこと、いっぱいあるよね。と問いかける。

私の夢の1つとして今年から取り組んだのは、女性が好きなことを仕事にしてイキイキ働ける場所を作ること。まだまだ始めたばかりですが、彼女たちの仕事ぶりを見ると、思い切って初めてよかったと心から思う。「私、資格もなくて。でも、夢を叶えたくて飛び込んだんです。今、ほんとに幸せです。」キラキラした目で仕事に勤しんでいる彼女たち。私のささやかな夢が、彼女たちの夢を叶え、笑顔につながっているのがとてもうれしい。

まだまだ自分にできることはあるはず。やりたいことはあるはず。と言っても、今からスポーツ選手になれるわけもなく、やれることは年齢を重ねるごとに狭まっているが、残りの人生で今が1番若い。行動しなければ、結果はでない。「できるか、できないか」ではなく、「やるか、やらないか」。やると決めたら行動。

自分の欲求を追求するだけでは、いい人生だったとは思えないだろう。笑顔がいっぱい溢れることを微力ながらも進めていけたら、みんなが笑顔になって、きっと悔いのない人生だったと思えるようになるのではと思う。

可児市では、未来の笑顔につながる『笑顔の“もと”』を育むことを、学校教育の目指す姿として推進している。子どもたちの『うれしい、楽しい、頑張った』が自信となり、未来の笑顔につながっていく。具体的に何になりたいという夢が無くても、将来、夢が見つかったときに自分に正直に行動できる子、小さい時の成功体験を夢につなげられる子が育ってくれたらと思う。

郷土愛を育む

七宗町教育委員会 教育委員 井戸 さえ子

町内では人口減少が止まらず、少子高齢化が急速に進む中で、小中学校統合に向けての準備が進められているところです。教育委員会では、この度の統合を「七宗町をふるさととする新たな教育」をつくり上げる機会であると期待しています。

しかしながら町内を歩くと、自分が育った頃に賑わった通りは、商店が無くなり、空き家や空き地が目立ち、誰とも会わないことも度々で、寂れゆくことに何ともやるせなさを感じます。私たちは、どの親の許に生まれるか、どの土地に生まれるかを自分で選ぶことはできません。しかし、与えられた境遇の差が、今育つ子どもたちの生活に暗い影を落とすことにならないことを願ってやみません。

子どもが健やかに育つ4つの柱は「眠ること、きちんと食べること、ちゃんと遊ぶこと、そして愛されていること」といいます。そうして人とかかわる良さを知っていることが、生き抜いていくための根っこになると思います。

そんなことを思っていた折、新聞で地域おこしに取り組む青森の女性の記事が目にとまりました。マグロで有名な大間町に育ち、東京で学び、大手企業に就職。その後家業を継ぐためにUターンし、先頭に立って活動している人です。

インタビューでは、「若者が出ていくのは仕方がないが、外で力を付けたヤツは帰ってきて仕事を作り出せる。だからこそ子どものうちから『やがては戻る』という気になる『種』をまいておかねば…『種』とは、地域社会との接点であり、そこで体験し得たふるさとの思い出だ」とありました。

自分自身がこの町で、多くの「幸せな記憶」を持っているからこそ、強く共感できる記事でした。

幸いなことに、町内の各コミュニティ・スクールは活発な取り組みを行っています。今秋に実施された小学校の「なかよしフェスティバル」では、商工会青年部、太鼓保存会、舞踊同好会、老人会等、計10団体が各ブースで体験活動を行いました。各ブースを訪れる子どもたちを迎える大人たちの眼差しは温かく、声をかけられ手伝ってもらう子どもたちの表情も明るく輝いて、地域が子どもの学びを支援することの意義を実感しました。過疎化が進む中で、機会を設けないと地域の方々とかかわることは難しいですが、学校とコミュニティ・スクールが協働し、地域力を生かす意識が高いことに頼もしさを感じます。

子どもたちを慈しむ家族や周りの人々の温かさは郷土愛を育み、子どもたちの根っこの部分を固めていくのだと思います。

ふるさと七宗町の特徴を浮き彫りにし、自分が育った土地に誇りが持てるような教育の推進を望んでいます。それが将来の希望につながる『種』まきとなるように。